

第4学年 図画工作科学学習指導案

日時 平成15年11月28日(金)5校時
場所 工作室
指導者 吉田武雄

I 題材名 「カーブを生かして」(立体に表す・つくりたいものをつくる)

II 題材について

一般的に中学年の子どもは、材料などを使って表すことに一層関心をもつようになるとともに、想像力を働かせ、表し方を工夫することに意欲を示すようになる。また、友だちとの関係も深まり、友だちの造形的な発想やアイデアが、他の子どもに広がり、表し方などを互いに紹介し合う姿も見られる。

吉田学級の子どもたちは、これまで「色と形のもよう遊び《絵に表す》」や「なんでもボックス《つくりたいものをつくる》」、「ギコギコ、コロコロ、たのしいなかま《立体に表す・つくりたいものをつくる》」等の題材の中で、いろいろな材料をもとに、自分の感じたことを形や色で表現することを思い思いに楽しんできた。しかしながら、これらの活動をみると、子ども一人一人がもっている想像力や造形感覚、技能などを発揮しながら自由に製作活動を進めている一方で、新たな表現の工夫や試みをして、自分の思いをよりよく表現していこうとする力があまり発揮されていないことにも気が付く。したがって、これまでの経験や培われてきた能力を十分に発揮しながら、より主体的に活動できるような支援を工夫することによって、子どもたちの個性的かつ創造的な表現の能力をさらに伸ばしていかなければならないと考える。

第3学年及び第4学年の目標は「(1)豊かな発想や創造的な技能を働かせ、その体験を深めることに関心をもつとともに、進んで表現する態度を育てるようにする。」「(2)材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、つくりだす能力、デザインの能力、創造的な工作の能力を伸ばすようにする。」である。また、この目標を受けて、指導内容が表現A(2)のA「表したいことを表すために、形や色、材料などを生かし、それらの組み合わせの感じに関心を持ち、美しさや用途などを考え、計画を立てるなど、工夫して表すこと。」、イ「表したいことに合わせて、前学年までに経験した材料や用具、板材などの特徴を生かすとともに、手を十分に働かせて水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎりなどの用具を工夫して使い、絵や立体に表したり、つくりたいものをつくりだすこと。」と構成されている。本題材は、これらの目標と内容を受けて設定したものである。

本題材は、つるの感触を味わいながら、つるのもつ曲線の美しさなどの特徴を生かして曲げたりつなげたり組み合わせたりして、好きな立体空間をつくる活動である。

つるは、野山や道端など自然の中にある身近な素材である。これまで扱ってきた直線的な加工による木材の造形活動と異なり、試行錯誤して自分のイメージで木材を好きな形に簡単に曲げたり組み合わせたりして新たに造形的作品を生み出すことができる活動に、子どもは旺盛な興味を示すと考える。主材料としては、葛やあけびなど、身近にある自然のつるを準備する。子どもはつるの手触り、香り、弾力性、曲線の美しさなどの特徴を感じ取りながら、子どもそれぞれの見方や感じ方で、立体空間を構成する楽しさを肌で感じ取るにちがいない。また、細く弾力性のあるものとして、自然素材だけでなく暮らしの中にあるビニルチューブやワイヤー等の組み合わせも考えられ、発展的に自分の作品に取り入れることも可能である。したがって、本題材は、子ども一人一人が、自分の興味・関心を生かしてもっている力を主体的に働かせながら、表現したいものを見つけて表し方を構想したりいろいろと試してみたりして、作品をつくりだす楽しさに浸って、自分の思いをのびのびと表現することができる題材であると考えた。

指導にあたっては、子ども一人一人が表現したいことをもとに、これまでの造形体験を生かして表現したり、新たな表現を試みたりして、つくりだす喜びを味わわせるように配慮したい。具体的な手立てとして、以下の5点を考えている。

着想段階においては、本題材で扱う中心素材であるつるそのものに触れて、これからの活動に興味と期待感をもたせるようにする。ここでは、つるの感触や弾力性等の特徴を十分に感じ取らせていく。

発想段階においては、つるを使った参考作品を鑑賞する活動を取り入れるようにする。この鑑賞によって、製作意欲を喚起するとともに、つるのもつ曲線の美しさなどの特徴を生かした作品から、子どもがそれらに発見的に気づき、これからの活動の見通しをもつことができるようにする。それから、実際にいくつかのつるを曲げたり組み合わせたりして、つるの特徴を生かしてどんなものができそうか製作活動の可能性を考えることができるようにする。活動の中には、意図的に自分がつくりたいと思う作品を考えて、曲げたり組み合わせたりする活動も考えられるが、子どもの主体的な活動を積極的に認めていく。交流の際は、一人一人の見方や感じ方を大切にしながら、多様な発見やイメージを共感的に受け止めることができるようにする。

構想段階においては、発想段階で思いついたおおまかなイメージをもとにしながら、表現意図がよりはっきりとしたつくりたいものを決めることができるようにする。また、適宜に友だちとイメージの交流の場を設けるようにする。つるの特徴の生かし方やつるに対しての感じ方、様々な組み合わせ方等にふれさせることによって、つくりたいもののイメージを広めるヒントとなるようにする。特に、共通に学ぶ技法については、いくつかのつるの接着方法を取り立てて提示するようにする。

表現段階においては、つくりたいものをよりよく実現するために、友だちと造形的視点(つるの特徴を生かした表現の工夫、材料や用具の工夫等)に立って製作途中の作品を交流する場を適宜設けたり、教師の意図的かつ子どもの求めに応じた新たな材料や用具の提供をしたりする。友だちとの作品鑑賞は、新たな表現の工夫やよさを互いに発見できるよい場でもあると考える。

鑑賞の段階においては、今回の活動の達成感を味わわせるとともに、次回の製作に対する意欲づけを図るために、活動の最後に仕上がった作

品を鑑賞し合う時間を設ける。鑑賞する際は、つるの特徴や作品が生かされるような展示の仕方を工夫して、自分や互いの活動のよさを認め合ったり、一人一人の見方や感じ方をもとにした作品を共感的に見合ったりするようにする。

III 目 標

- 《関心・意欲・態度》 つるのもつ曲線の美しさなどの特徴に関心をもち、自分で立体空間をつくることを楽しむようにする。
- 《発想や構想の能力》 つるなどの材料の組み合わせや配置を工夫しながら、曲線で美しい立体空間を構成するようにする。
- 《創造的な技能》 つるやそれをとめる材料の特徴を理解して扱いに慣れるとともに、よさを生かしながら工夫してつくるようにする。
- 《鑑賞の能力》 参考作品や友だちの作品から、つるのもつ美しさなどの特徴を感じとったり、できた作品について話し合い、自他のよさを認め合ったりするようにする。

IV 学習計画及び評価計画

学習段階及び主な学習内容		評価規準【評価の方法】及び未達成の場合の手立て	
第1次【着想】(15分)……………本時			
様々な形に曲げたり、それらを組み合わせたりしながら、つるの感触を味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ・題材名からの発想 ・材料との出会い ・つるを曲げる、簡単に組み合わせる等の活動。 	【関】 つるに興味を示し、その感触を、五感を通して味わっている。 【活動の様子・発言】	【関】 つるに十分かかわらせるとともに友だちの意見をもとにして、自分なりの見方や感じ方をさせる。
第2次【発想】(48分)……………本時(30/48)			
参考作品を鑑賞し、つるでできる造形作品に関心をもち、つるのもつ曲線の美しさなどの特徴に気づいたり、簡単につくりたいものを思いついたりする。	(30分) <ul style="list-style-type: none"> ・参考作品の作品鑑賞 ・素材への十分なかかわり ・簡単なつくりたいもののイメージ ・活動のふりかえり(活動の見通し) (18分) <ul style="list-style-type: none"> ・ラフスケッチや言葉による簡単なかきとめ 	【発】 材料に触れながらアイデアを膨らませている 【学習カード】 【鑑】 参考作品から、つるの組み合わせからできる空間の美しさ等に気づいている。 【発言】	【発】 友だちの発想をもとにして、活動の可能性を考えさせる。 【鑑】 友だちの見方や感じ方をもとに、視点を明らかにしながら鑑賞させる。
第3次【構想】(27分)			
つるの感触や形から想像したり、組み合わせたりして、つくりたいものを決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージスケッチ ・つるの接着の仕方 ・構想の交流 ・活動のふりかえり(イメージの深まり) 	【発】 材料に触れながらつくりたいもののイメージをはっきりもっている。 【学習カード】	【発】 アイディアの交流により、つくりたいものはっきりさせる。
第4次【表現】(165分)			
自分の表したい形を効果的に表現するように、接着の仕方や色、飾りのつけ方等を工夫しながら、丁寧に組み立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをもとにした表現活動 ・活動のよさの交流 ・構想の見直し ・活動のふりかえり(表現の深まり) 	【関】 自分の思いがよく表れるように、粘り強く取り組んでいる。 【学習カード・活動の様子】 【創】 作品の形や大きさにこだわりをもち、自分らしさが表れるように工夫している。 【作品・活動の様子】	【関】 友だちの作品や教師の言葉かけ等により、製作用意欲を喚起する。 【創】 友だちの活動やアイデア、他の材料等の提示により、効果的に表現させる。
第5次【鑑賞】(15分)			
互いの作品を鑑賞し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品鑑賞 ・活動のふりかえり(表現や活動のよさの交流) 	【鑑】 自他の作品の発想や作品の美しさおもしろさ、工夫等を見つけることができている。 【学習カード・発言】	【鑑】 着想で鑑賞した作品と比べさせたり、これまでの友だちとの交流の視点をもとにして、鑑賞させたりする。

全6時間扱い《本時1/6》

つるの感触を味わうとともに、つるのもつ曲線の美しさなどの特徴を生かし、つなげたり、組み合わせたりして、好きな立体空間をつくる。

V 準 備

教師：材料【葛やあけびなどのつる、弾力性のある線材、紙粘土、アルミ針金、発泡スチロール、木片、モール等】

道具【木工用接着剤、木工やすり、紙やすり、のこぎり等】

児童：木片、はさみ、水彩絵の具、身辺材料等。

IV 本時の指導

1 題材と子ども

本時は、着想及び発想段階の活動である。

まず初めに、題材名からこれからの活動について考えたり、中心素材である『つる』に触れたりする。特に、これからの表現材料となるつるの感触や木の香り、弾力性等の特徴を十分味わうことができるようにすることによって、つるを使ってどんな活動ができそうか子どもなりの様々な発想を引き出し、これからの活動に対する意欲を喚起するようにしたい。

次に、参考作品を鑑賞する。提示する参考作品（3作品）はいずれもつるのもつ曲線の美しさなどの特徴を生かして3次元的な空間を構成した作品である。子どもはこれらの参考作品を、つるの数、向き、曲線の形、組み合わせ、方向、大きさ、太さなどの視点にたつて鑑賞するであろうし、つるの織り成す曲線の美しさやつるを使って構成された空間作品のおもしろさを実感し、つるを使った新たな活動に気がつくことができるものと思われる。それから、これらのつるの特徴を生かして構成された作品を、さらに何に生かしていくことが可能か考えることによって、つるでできた空間に明確な意味付けをし、つくりたいもののイメージをはっきりとさせて製作していくことに気づくことができるようにしていく。特に、自分の思いをよりよく実現するためには、他の弾力性のある材料や補助材料等を用いていくことも可能であるということにもふれていく。

その次に、鑑賞での気づきをもとにして、再度つるをねじったり丸めたり組み合わせたりして、つるに十分触れながら、自分なりに美しいと感じる曲線や気に入った形を意図的且つ発見的に見つける活動へつなげていく。この時、必要に応じてつるを切ったり、つるを簡単に仮止めしたりすることができるように、万能バサミ等の用具やアルミ素材の針金を準備するようにする。これらの活動を出発点として、さらにどんなものに生かせそうか考える場面を設ける。また、友だちとの交流場面を設定したりして、多様な感じ方やできそうなものにふれることによって、自分なりにつくりたいものをはっきり決める際の一助となるようにしたい。この時、必要に応じて学習カードに簡単な絵や言葉でかきとめさせておくようにする。中には、この段階からすでにつくりたいものが決まって欲しい形を構成している子どももいると考えられるが、主体的な活動を認めていきながらも、つるのもつ曲線の美しさなどの特徴にも目を向けさせるよう言葉がけをしていきたい。

2 わらい

- (1) 参考作品を鑑賞し、つるでできる造形作品のおもしろさに気づき、製作活動の意欲を高めるようにする。
- (2) つるの感触を味わいながら、つるのもつ曲線の美しさなどの特徴に気づき、それらを生かして何ができるか簡単に思いついたりすることができるようにする。

3 全体の評価計画

学習段階 指導項目		1	2	3	4	5	6
		着想・発想	構想	表現			鑑賞
ア	関心・意欲・態度	○			○		○
イ	発想や構想の能力	◎	◎				
ウ	創造的な技能				◎		
エ	鑑賞の能力	○					◎

4 評価基準 (90分)

横の軸	指導項目	評価規準【評価方法】	A 十分に満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する<手立て>
ア ○	関心・意欲・態度	つるに興味を示し、その感触を五感を通して味わっている。 【学習カード・発言】	様々な形に曲げたりして、つるのもつ特徴をたくさんの視点にたつて見つけて、発表している。	つるを手にとり、香りを嗅いだり、曲げたりしながら、つるの感触を味わっている。	つるに触れる活動が停滞している。 <材料へのかかわりの促しや交流>
イ ◎	発想や構想の能力	①材料に触れながらアイデアを膨らませている。 【学習カード】 ②材料に触れながらつくりたいもののイメージをはっきりもっている。 【学習カード】	①つるに実際にさわりながら、美しい形やおもしろい形をみつけたら、それを生かしてつくりたいものをたくさん思いついたりしている。 ②つくりたいものの表現意図がはっきりしている。	①つるに実際にさわりながら、美しい形やおもしろい形をみつけ、つくりたいものを思いついたりしている。 ②つくりたいもののイメージがはっきりし、スケッチしている。	①つるに触れる活動が停滞し、自分なりに感じるおもしろい形や美しい形を見つけないに困っている。 <友だちの発想の交流> ②つくりたいもののイメージが漠然としている。 <友だちの発想の交流>
ウ	創造的な技能				
エ ○	鑑賞の能力	参考作品から、形や材料、つくりかた等に目を向けるとともに、組み合わせからできる空間の美しさやおもしろさ等について気づいている。 【発言】	参考作品を見て、つるでできる作品の空間の美しさやおもしろさ等様々な視点で気づき、自分なりの言葉でたくさん表現している。	参考作品を見て、つるや弾力性のある線材でできる作品のおもしろさや素材のおもしろさを感じ、自分なりの言葉で表現している。	鑑賞する際の視点が曖昧で、自分なりに感じたことを表現できない。 <友だちとの交流と見る視点の明確化>

5 展開 <本時展開の(5)の途中まで>

学習活動及び予想される子どもの反応	教師の支援と評価 (・支援 ◆評価 ★未達成の場合の手立て)	備考 (準備物等)
<p>(1) 全体 (5)</p> <p>題材名からこれから行う活動の簡単な見通しを持つ。</p> <p>・『カーブ』って何だろう。 ・曲げることができる材料は何があるかな。 ・針金、竹籤があるよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材名『カーブを生かして』を提示し、言葉を手がかりにしてこれから行う活動について予想する。 ・ 身の回りの材料から、曲線を形づることができる材料についていくつか考えさせる。 ・ 子どもが思いつくであろう材料については、事前に準備し、可能な限り提示していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材名『カーブを生かして』の提示。 ・ 子どもが思いつくであろう材料。
<p>(2) 全体 (10)</p> <p>子ども一人一人がつるを手に取り、曲げたり、ねじったりしながらつるの感触を味わう。</p> <p>・『つる』はどんなところに生えているのかな。 ・木の良い香りがする。 ・やわらかいけど強いね。 ・太い木に巻きつくくらいつるは丈夫なんだね。 ・いろいろな形に曲げることができておもしろいね。 ・つるを使ってどんなことをしようかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然でできたつるの美しさやおもしろさを感じることができるように、中心材料である『つる』をまず提示する。そして、自然の材料を使って活動をするという方向性を示す。 ・ 実際につるを手に取ることによって、つるを曲げたり、ねじったりしてその感触や香りを十分感じ取ることができるようにする。 ・ 活動の可能性に目を向けることができるように、五感を通して感じたことや気がついたことを話し合う場を設ける。 ・ 偶然にできる様々な形のおもしろさやつるそのものの特徴を感じ取ることができるように、気づいたことを全体に広めていく。 <p>◆ 評価</p> <p style="text-align: center;">ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんな場所に生息しているか参考となる資料。 ・ 葛のつる。
<p>(3) 全体 (10)</p> <p>つるを使って立体的に構成してできた参考作品を鑑賞し、感じたことを話し合う。</p> <p>・ つるをいくつか組み合わせるとおもしろい形になるね。 ・ 様々な曲がつるが重なってきれいだね。 ・ 参考作品はどこに(何に)飾る(使う)のだろう。 ・ いろいろなものをつくることができそうだね。 ・ つる以外に様々な材料を使っているよ。 ・ つるとつるは何で止めているのかな。 ・ つくってみたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が製作した参考作品から、つるを使った製作活動の見通しを持つことができるように提示する。 ・ 素材そのものをいくつか組み合わせたり、他の線材や補助材料を付け加えたりした作品を提示し、子どもがつるのもつ曲線の美しさなどの特徴を見つけるとともに、全体の印象を心にとめて鑑賞することができるようにする。 ・ つるを様々につなげたり組み合わせたりすると、3次元的な立体空間を構成することができることや、曲線の美しさやおもしろさに気づかせるようにする。 ・ つる以外に、弾力性の線材や補助材料を加えて飾りを施すことによって、活動の広がりや活動の楽しさが生まれることを感じ取ることができるようにする。 <p>◆ 評価</p> <p style="text-align: center;">ア、エ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考作品。 ・ 子どもの反応の板書による位置付け。

学習活動及び予想される子どもの反応	教師の支援と評価（・支援 ◆評価）	備考（準備物等）
-------------------	-------------------	----------

(4) 個人 (2)

学習課題を把握する。

つるを使ってつくりたいものを考えよう。

(5) 全体 (本時は18/40)

つるを使って気に入った形やできそうなものをいくつか考え、つくりたいものを決める。

- ・長いつるを巻いてみたらおもしろい形になったよ。
- ・長いつるをどんどん重ねて巻いてみよう。
- ・様々な方向にまいたらどんな形になるかな。
- ・ここの形がすてきだよ。
- ・部屋の窓際に飾るものをつくったらすてきだな。
- ・つるに木片を通したら、遊ぶものができそうだよ。
- ・このつるの形にきれいな飾りをつけるとおもしろそうだよ。
- ・〇〇をつくらう。

- ・ つるを実際に手にもって試しに形づくりながら、曲線の美しさやおもしろさが表れた形を見つけたり、それらを生かして、できそうなもののイメージをいくつか考え場を設ける。
- ・ つるの仮止め用として、アルミ素材の針金を準備し、いつでも活用できるようにする。
- ・ 必要に応じて簡単な絵や言葉で学習カードにかきとめることを助言し、子どもがイメージをどんどんふくらませながら活動できるようにする。
- ・ 活動の途中で、製作活動の可能性をさらに広げられるように、つるのもつ曲線の美しさなどの特徴をもとに、気に入った形を見つけている子どもや、それらを生かしてつくりたいものを思いついている子どもの考えを紹介する。
- ・ 適宜に、つるの接着の仕方についても触れる。

◆ 評価

イ—①

- ・ つくりたいもののイメージがはっきりしてきたら、イメージスケッチをするとともに、表現意図をはっきりさせるようにする。
- ・ 自分の製作していく際に必要な材料や用具、技法等を明らかにできるようにする。
- ・ 動を振り返り、活動のよさをとらえるようにする。

◆ 評価

イ—②

(6) 全体 (5)

活動を振り返り、今後の活動の見直しを持つようにする。

- ・ 素材そのものを生かした参考作品と他の線材や補助材料を加え参考作品の提示。
- ・ 学習課題の提示。
- ・ 学習カード。
- ・ 仮止め用のアルミ素材の針金。
- ・ 資料や教師の実演により、つるの仮止めによる接着の仕方の紹介。
- ・ 子どもの反応の板書による位置づけ。
- ・ 学習カード。
- ・ 学習計画の提示。
- ・ 万能バサミヤのこぎり。
- ・ つるや用具を扱う際の、安全への配慮。

- ・ つるの接着の仕方の資料や教師の実演。
- ・ 学習カード。